

■ 賛同者からのメッセージ ■



小山 薫堂氏

SEEDS OF FURUSATO プロジェクトの良さは募金の使い方が明確なことであり、投じた分参加感が生まれる寄付の形になっているところである。

東日本大震災に関連する他のさまざまな募金があるが、このプロジェクトが「文化遺産の復興」という目的であることをもっと分かりやすく訴えていく必要があるのではないかと考えている。

また、被災した文化財の復興のためにあとどの程度必要なのか、とか、今どの程度修復が進んでいるのか、ということが、リアルタイムで分かったり、行き先も選べたりすると、支援する側にとってもより参加している実感が得られ、目標達成に向けた積極的かつ継続的な協力や応援に結びつけられるのではないだろうか。

私自身、「寄付」という言葉があまり好きではない。「相手に拍手を送る」、というような意味合いの言葉があればとも思うが、大切なのはその気持ちを形にするということであり、それはアイデアであってもシステムであってもよい。

さらにそのお金の使い方として、例えば50万円では復興の一部にしか役立たないかも知れないが、その50万円がシードマネーとなって、人の輪ができたり、サポートしようという人が近づいてくる、一致団結するというような、活きたお金の使い方につながれると、単なる50万円の募金で終わることなく、拍手を送った人達と被災した方々が共に復興を成し遂げた充実感を得られ、そしてさらなる共感を得られるのではないかと考えている。

日本ナショナルトラストが支援をする、その行為そのものによって、みんなが「拍手を送りたい」「何か応援しなければ」と思うようになってほしい。そういう「失われつつある自然・文化遺産」認定制度のようなものがあってもいいと思う。

(放送作家／脚本家)

小山 薫堂